

陸上水槽でのノコギリガザミ中間育成指導

多和田 真 周

1. 目的

中間育成技術全般の指導

2. 対象

中城沿岸漁業振興推進協議会（港川漁協）

3. 協力機関

水産振興課・日裁協八重山事業場・具志頭村

4. 経過

8月30日に日裁協八重山事業場から空輸された稚ガニ約5千匹（甲幅長20mm）を直ちに遊休化している活魚水槽（2×2×1.3mコンクリート製）に収容、シェルターとしてキンラン、古網等を投入、簡易ブローアによる通気と海水ポンプで揚水した原海水を微流水とし、餌料はクルマエビ用人工配合餌料を給餌、水槽が小型で流水量が少量で

あるため、餌が残らないよう飼育管理を徹底するように心掛けた。

その結果、稚ガニは順調に成長、水槽容量が小さいため、大型個体から順次放流、放流結果は9月9日に50尾、9月11日に50尾、9月12日に50尾、9月18日に150尾、10月7日に100尾は糸満豊かな海づくり大会用として報得川に放流（平均甲幅長42.2mm）、10月28日には具志頭村まつりの一環として401匹（平均甲幅長47mm）を港川漁港船場より雄樋川へ放流する。

一部（20尾、平均甲幅長70mm）ノコギリガザミについては、1尾ずつ籠に入れ成長等の飼育試験へ供試した。

問題点としては種苗入手が困難であるため、種苗の大量放流に並びに養殖等について無理があることがあげられる。